

2012年1月21日

もし、あなたが人生の最期を迎えたら、どこで迎えたでしょうか。できれば住み慣れた地域、家庭で、家族に囲まれながら笑って暮らしたい。そして苦しむことなく最期を迎えたい。そう考える方は多いと思います。

しかし、現実はどうでしょうか。「看とり」の場所についての厚生労働省のデータがあります。病院で最期を迎える人は全体の78・4%です。自宅で最期を迎える人は昨今減少傾向にあり、12・4%です。家族の形態が変わって、自宅でなかなか最期を迎えられない状態です。



大瀨 篤

論壇

日本は空前の超高齢多死社会となりつつあります。現期になつて急激に生活自立度が下がる傾向にあります。このことが患者さんや家族を不安にさせ、自宅ではなく、どうしても病院に入院して安心して暮らしたいと希望されている場合があります。

在宅の「看とり」を考える

「人生の最期」を悔いなく

50%増えれば、病院で最期を迎えることは不可能ならざるを得ないと予想されます。特に癌は日本人の死因のトップですが、在宅で看とる率はさらに減り、8・3%です。これはいったいなぜなのでしょう。

癌の疾病の特徴として、末期になつて急激に生活自立度が下がる傾向にあります。このことが患者さんや家族を不安にさせ、自宅ではなく、どうしても病院に入院して安心して暮らしたいと希望されている場合があります。

症状が急変するでしょうか。例えば、痛みが急に強くなる、突然嘔吐する、呼吸や脈拍が弱くなってきたなどの症状が出た時は、在宅医療スタッフ（在宅療養支援診療所・訪問看護ステーション）に連絡いただければ、24時間どんな時でも対応しており、迅速な症状緩和のための処置を行っています。また、介護支援専門員やヘルパー等の他職種との連携も密にし、患者さんやご家族の不安の解消に努めています。

2007年、厚生労働省が「看とれる居住系施設」の増加を「この方針を示しており、在宅療養支援診療所ではこのようにして居住系施設での看とるをお手伝いさせていただきます。皆さんのご家族が今、まさに終末期の状態であったとしたら、皆さんが「できること」をしてほしいと思います。

患者さんが親であれば、これまで育ててくれたことへの感謝をすとか、謝っておくことがあれば謝るとか、あるいは話を聞いてあげるだけでもいいし、一緒に寄り添うだけでもいいのです。

1月22日午後2時から、沖縄県医師会館（南風原町）で看とるを考える懇談会を開催します。悔いの残らない看とるをしてみませんか。

（浦添市、病院副院長、55歳）